

令和3年度(2021年度)公共事業(大規模等)事前評価調査書

基準年月日

令和4年3月1日

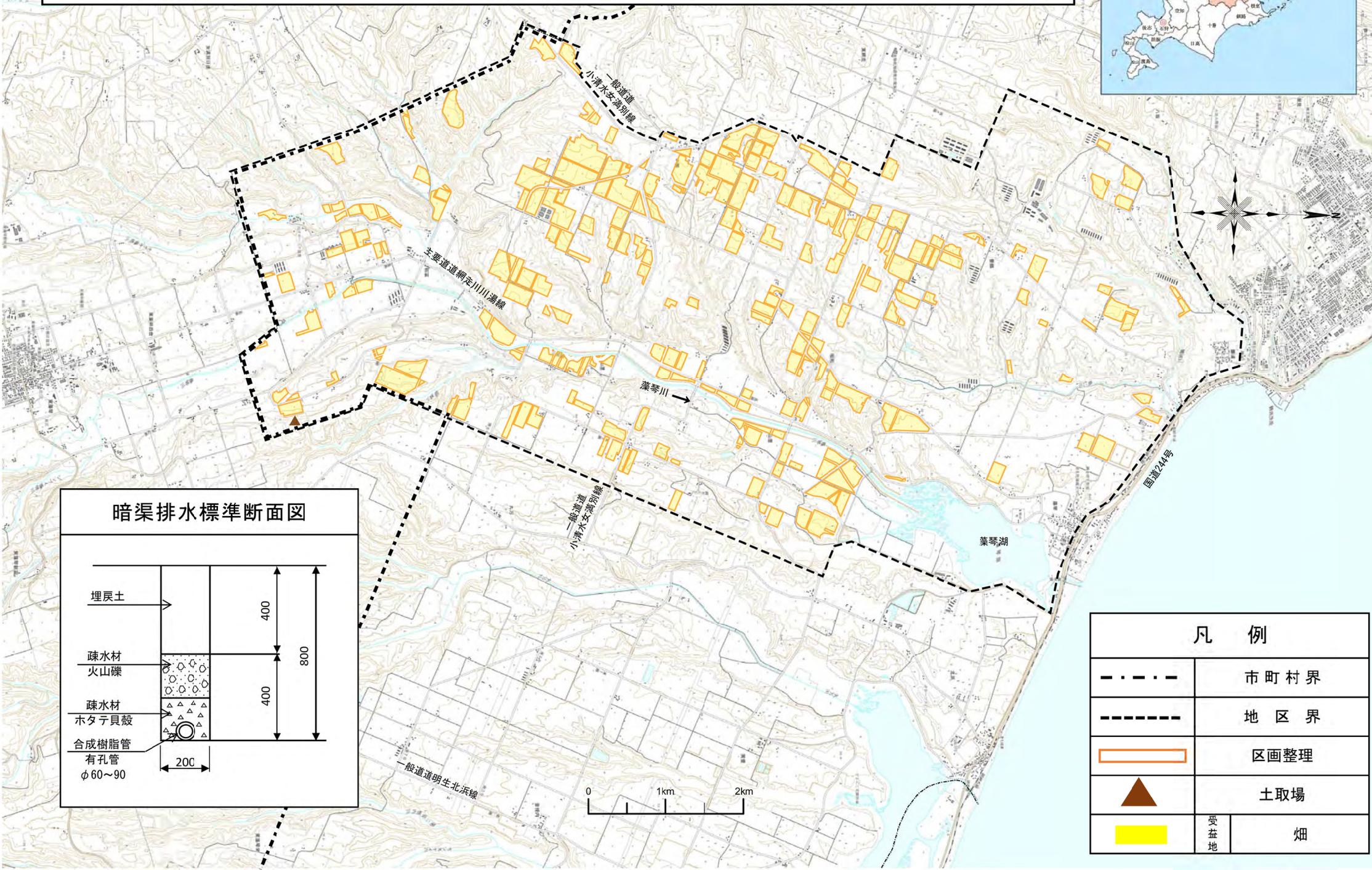
調査番号	06-16	所管部	農政部	作成責任者	農政部農村振興局農村計画課長 大浦 正和			
				担当係	畑地計画係(内) 27-426			
I 基本事項								
事業種別	道営土地改良事業費(水利施設等保全高度化事業(畑地帯総合整備型))							
地区名	あほいらもことほいで 網走藻琴第2	市町村名	網走市	事業期間	採択	R5 (2023)	完了	R13 (2031)
事業費	3,000 百万円	負担割合	国 52.0%	道 28.0%	市町村	-	その他	20.0%
			1,560	840	-	-	-	600
事業目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ●畑作物の生産振興及び畑作経営の改善等を図る。 ●地域農業をささえる担い手農家の経営体質を改善し、安定した農業経営の確立を目指す。 ●担い手への農地集積を維持する。 ●事業実施により安全・安心な食の生産をささえる。 			事業概要 本地区は網走市の東部に位置し、小麦、ばれいしょ、てんさいに加え、小豆、二条大麦、牧草などの作物を主体とする大規模な畑作地域である。 地区内のほ場では、急勾配や排水不良、石礫による営農障害が発生しているため、ほ場の勾配等を修正する区画整理とあわせ、排水性を改善するための暗渠排水、保水性を改善するための客土、営農の支障となる石礫の除去を行う。これにより、地区の課題を解消し、農業生産力の向上を図る。				
	工事費内訳 【アウトカム】等 ●事業実施前(R4年(2022年))の担い手農地利用集積率(受益面積のうち担い手が耕作する面積の割合)は100.0%だが、本事業を実施することにより事業完了翌年には100.0%での維持が見込まれる。			受益面積 848ha 受益戸数 57戸 ○区画整理 A=848ha (整地、暗渠排水、客土、除礫) ○測量設計費 272 ○用地補償費 57 計 3,000				(百万円) 2,671
総合計画での位置付け	施策名	農業農村整備の推進				総合計画：大項目 経済・産業		
	総合計画：中項目	農林水産業の持続的な成長				総合計画：小項目 潜在力のフル発揮で地域の経済・社会を支える農業・農村づくり		
	施策目標	地域の個性や創造力を活かした農業・農村の持続的発展に向けて「いのちの源「食」の生産をささえる」「多様な担い手と地域をささえる」「豊かな農村環境をささえる」の3つを整備の基本方針とし、地域の実情に即した生産基盤等の計画的な整備を進める。				関連する指標 食料自給率(カロリーベース) 令和7年度(2025年度) 目標値：238%		
II 評価								
1. 必要性	<ul style="list-style-type: none"> ●本地区は、小麦、ばれいしょ、てんさいの3品に豆類や二条大麦、牧草を取り入れた大規模な畑作経営が展開される地域である。 ●本地域では、JAオホーツク網走が中心となり、小麦、ばれいしょ、豆類の生産に力を入れている。特に、小麦については、「春よ恋」と「きたほなみ」の2品種が栽培されており、「春よ恋」は小麦粉やそうめん、うどん等に加工し、商標登録されている「春恋」のネーミングを用いて道の駅やオンラインショップなどで販売されている。 ●本地域では大手アルコール飲料メーカーとの契約栽培で二条大麦が広く生産されており、ビールや焼酎の原材料として使用されている。 ●地区内の農地はこれまでも団体営事業や道営事業などにより農地の整備が行われてきたが、未整備の急勾配、保水力不足、排水不良、石礫過多のほ場が残っており、ほ場条件の格差を生む要因となっている。 ●このため、本地区では大型機械の効率的な作業を行うための区画整理の実施にあわせ、排水不良を解消する暗渠排水、保水性の改善としての客土、営農の支障となっている石礫の除去を行い、将来にわたる効率的かつ安定的な畑の整備を推進し、農業経営の改善を図る必要がある。 ●本事業は、北海道総合計画の第4章の2の(1)「農林水産業の持続的な成長」、第6期北海道農業・農村振興推進計画第3章の1「持続可能で生産性が高い農業・農村の確立」、第12期網走市農業振興計画に位置付けられている。 							
2. 適切性	<ul style="list-style-type: none"> ●実施にあたり、関係機関との協議調整や専門的な知識が必要とされることから、北海道による実施が適切と判断する。 ●北海道が実施主体となるための事業要件(受益面積100ha以上)を満足しており、市町村が実施主体となれば事業に対する知見がなく、専門的な知識が不足していることから、北海道が実施主体となって実施する。 							
3. 代替案の検討	<ul style="list-style-type: none"> ●大規模畑作地帯の営農の一体性から、整備水準の統一性や地元調整の効率性を鑑みて、畑地帯を総合的に整備する本事業以上の対策は見当たらない。 ●暗渠排水の疎水材や管種は、地域によって入手しやすくストックが十分あり、営農作業に支障がなく、経済的で地域合意が得られているものを選定している。 ●除礫は畑作物の生育に支障がなく、経済的な工法を選定している。 ●客土の土取場は、保水力不足を解消するための粗粒質な客入土が確保可能な土取場を選定している。 							
4. 緊急性・優先性	<ul style="list-style-type: none"> ●地区内には、未整備ほ場など農業生産に不利な条件の農地が存在し、保水力不足、排水不良や石礫による作物の生育不良が著しく、作業機械の効率的な運用が困難となっていることから、早急に整備を行う必要があり、緊急性が高い。 ●新たな食料・農業・農村基本計画では、食料自給率の向上を目標に掲げ、請すべし施策として農業生産基盤整備を示しており、食料の安定生産に寄与する本事業の優位性は高い。 							
5. 環境への影響・配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●本地区は、網走市が策定する田園環境整備マスタープランでは、環境配慮区域に位置付けられている。 ●地区内に生息する動植物の生息環境を把握する地域調査等を行い、生態系や景観に配慮した環境保全対策について、環境情報協議会へ諮っていないことから、今後、オホーツク総合振興局が開催する同協議会へ提案し、意見交換を行うこととする。 							
6. 妥当性	根拠法令等	土地改良法、北海道農業・農村振興条例						
	その他	北海道総合計画、第6期北海道農業・農村振興推進計画、第12期網走市農業振興計画						
	地域の動向・意向	【地域関係手続】 ●R1(2019).3 関係農業者から網走市へ整備要望 ●R2(2020).4~ オホーツク総合振興局による事業制度の説明および関係農家の整備要望の確認 【事業関係手続】 ●R2(2020).9 網走市農業農村整備事業管理計画に登載 ●R3(2021).4 オホーツク総合振興局で地域の整備要望を踏まえ調査開始 ●R4(2022).10 整備要望を反映した事業計画概要の作成(予定) 【コスト削減の取組】 ・特になし						
7. 事業効果	経済効果の内訳(百万円)		費用の内訳(百万円)		B/C	備考		
	作物生産効果	1,124	区画整理	2,634	1.14	<ul style="list-style-type: none"> ・「土地改良事業の費用対効果分析マニュアル」(農林水産省H30改正)に基づき算出 ・経済効果の合計と費用の合計は、「工期+40年」の累計で算出しR4年度に現在価値化している。 ・費用の合計は現在価値化しているため事業費と異なる。 ・暗渠排水の前歴事業にかかる費用を「関連施設」として計上している。 		
	営農経費削減効果	1,804	関連施設	82				
	国産農産物安定供給効果	186						
合計(B)	3,114	合計(C)	2,716					

8.事業特性による特記事項	<p>【協議・調整状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当事項：埋蔵文化財包蔵地に係る協議、暗渠排水落口接続 ・実施状況：いずれの協議も終了しており、工法等について了解を得ている。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業農村活性化計画を作成。（農地集積計画） ・負担割合の「その他」は、農業者の負担割合及び負担金である。 ・担い手：農業経営の改善に意欲的で、市町村が認定した地域農業を担う農業経営者。
Ⅲ 今後の対処方針	
対処方針	農地の整備水準の向上に大きく寄与し、地域農業の維持に大きく貢献するとともに国民への食料の安定供給に資することから要望を行うことは妥当である。
a	a：要望を行うことは妥当 b：要望に当たって検討を要する c：要望を行うことは妥当でない

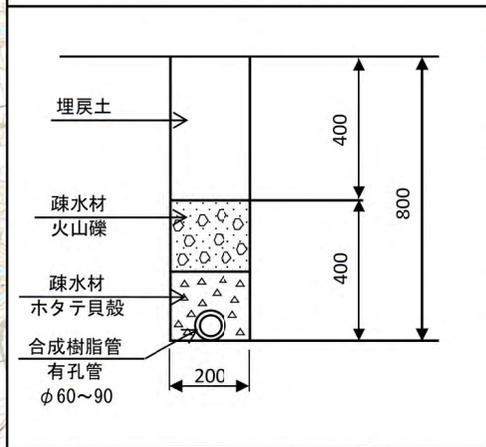
水利施設等保全高度化事業（畑地帯総合整備型）

あばしりもことだいに

網走藻琴第2地区 計画一般図



暗渠排水標準断面図



凡 例	
---	市町村界
- - - -	地区界
▭	区画整理
▲	土取場
■	受益地
■	畑